



**MFC 4000**  
*Music Production Center*


---

Version 1.30 追補版

**AKAI**  
**professional**

## 使用説明書

ご使用になる前に、必ずこの  
使用説明書をよくお読み下さい。



# MPC4000 V1.30 追補版

## Q-Link SETUPモード

Q-Link SETUPの変更	1
Transmitフィールド	2
Q EVENTの使い方	3
CTRL CHANGEの使い方	4
KEY BASEDの使い方	5
Q EVENTの編集	6
KEY BASEDの編集	6
ERASEポップアップウィンドウの変更	7
Insert Eventポップアップウィンドウの変更	7

## GLOBALモード

Default itemsフィールドを追加	8
-----------------------	---

## GLOBAL/LOADモード

Autoloadフィールドを追加	8
------------------	---

## LOADモード

Load a Sampleポップアップウィンドウを追加	9
-----------------------------	---

## MIDIモード

MIDIモニターページを追加	9
----------------	---

## Q-Link SETUPの変更

MIDI Key-based Controllers Messageへの対応とQ-Linkの操作をシーケンスに記録する際の操作性を向上させる為にQ-Link SETUPモードが変更されました。

併せて、Q-Linkセクションの[ACTIVE]キーの動作に変更があります。

Q-Linkセクションの[SETUP]キーを押して表示されるQ-Link SETUPモードの[F1]KNOBページと[F2]SLIDERページが廃止され、[F1]RECEIVEページと[F2]SENDページに変更されました。

Q-Linkノブ/スライダの設定を送信と受信で独立させたことで、より簡単にノブ/スライダの操作を記録することが可能です。

### RECEIVEページ

Multi:Multi 1	
PART:ALL @ 1 Assion:LEVEL Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A	FX:1 @ 2 Assion:WetIDry Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A
PART:ALL @ 3 Assion:LEVEL Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A	FX:1 @ 4 Assion:WetIDry Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A
PART:ALL @ 5 Assion:LEVEL Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A	FX:1 @ 6 Assion:WetIDry Type:REPLACE Range:-100▶+100 Ctrl:OFF Midi= 1A
<input type="checkbox"/> RECEIVE <input type="checkbox"/> SEND <input type="button" value="RES ALL"/> <input type="button" value="RESET"/>	

RECEIVEページではQ-Linkの受信に関する設定を行います。各フィールドの設定方法はV1.2と同様ですが、Q-Linkノブ/スライダを操作した時やトラックに記録したQ-Link操作の情報を再生した時に、どのパラメータをコントロールするかを設定します。

### SENDページ

Multi:Multi 1	
Transmit:Q EVENT @ 1 <input type="checkbox"/>	Transmit:OFF @ 2 <input type="checkbox"/>
Transmit:CTRL CHANGE @ 3 Ctrl:119 Range: 0▶ 127	Transmit:OFF @ 4 <input type="checkbox"/>
Transmit:KEY BASED @ 5 Note: 37/C#1 Assion:VOLUME Range: 0▶16383	Transmit:OFF @ 6 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> RECEIVE <input type="checkbox"/> SEND <input type="button" value="RESET ALL CTRL"/>	

SENDページではQ-Linkノブ/スライダを操作した時に送信する情報を設定します。

## Transmitフィールド

Q-Linkノブ/スライダーを使って送信する情報を[F2]SENDページのTransmitフィールドで選択します。

OFF	Q-Linkノブ/スライダーを操作しても何も情報は送信されません。
Q EVENT	<p>Q-Linkノブ/スライダーを操作するとそれぞれQ EVENT 1 ~ 6 として操作の情報が送信されます。</p> <p>Q-Linkノブ/スライダーを使って[F1]RECEIVEページで設定したパラメータをコントロールする場合に選択して下さい。</p> <p>Q EVENTはトラックに記録することができますが、特別なイベントとして常に内蔵音源へ出力されるので、選択されているトラックのMIDIのチャンネルの設定などを意識せずに記録/再生できます。</p>
CTRL CHANGE	<p>Q-Linkノブ/スライダーを操作すると[F2]SENDページで設定したコントロール・チェンジとして操作の情報が送信されます。</p> <p>Q-Linkノブ/スライダーを使って外部の機器をコントロールする場合などに選択して下さい。</p> <p>コントロール・チェンジの送信先/MIDIチャンネルは選択されているトラックに準じます</p> <p>[F2]SENDページで[F5]/[F6]キー(RESET ALL CTRL)を押すとリセットオールコントローラーズがトラックのOutフィールドに応じて送信されます。</p> <p>内蔵音源へ送信された場合には、PITCH BEND/CONTROL CHANGE/KEY BASED CONTROLがリセットされます。</p>
KEY BASED	<p>Q-Linkノブ/スライダーを操作すると[F2]SENDページで設定したノートに対するキーベースド・コントローラーとして操作の情報が送信されます。</p> <p>キーベースド・コントローラーはドラム・プログラムのノート毎に、Volume/Pitch/Pan/AmpEnvRelease/AmpEnvAttack/AmpEnvDecay/Resonance/Cutoff/LFO1Depthをコントロールすることができるので、特定ノートのサウンドだけをコントロールしたい場合に選択して下さい。</p> <p>キーベースド・コントローラーの送信先/MIDIチャンネルは選択されているトラックに準じます</p> <p>[F2]SENDページで[F5]/[F6]キー(RESET ALL CTRL)を押すとリセットオールコントローラーズがトラックのOutフィールドに応じて送信されます。</p> <p>内蔵音源へ送信された場合には、PITCH BEND/CONTROL CHANGE/KEY BASED CONTROLがリセットされます。</p>

注：キーグループ・プログラムに対してKEY BASEDを使用することはできません。



## Q EVENTの使い方

### Q-Linkを操作して内蔵音源をコントロールする

- 1 . Q-Link SETUPモードの[F2]SENDページのTransmitフィールドでQ EVENTを選択して下さい。
- 2 . Q-Link SETUPモードの[F1]RECEIVEページでコントロールしたいパート/エフェクトのパラメーターを設定して下さい。

### Q-Linkの操作をQ EVENTとしてトラックに記録する

- 1 . 上記の設定後、シーケンスをOVER DUBしながらQ-Linkノブ/スライダーを操作すると、その操作がQ EVENTとしてトラックに記録されます。
- 2 . シーケンスを再生すると記録したQ EVENTが再生されます。

Q EVENTは特別なイベントとして常に内蔵音源へ出力されるので、選択されているトラックのMIDIチャンネルの設定などを意識せずに記録/再生できます。

### Q EVENT選択時の[ACTIVE]キーの動作

シーケンス再生時とOVER DUB時で[ACTIVE]キーのオン/オフによる動作が変わります。

#### シーケンス再生時、[ACTIVE]キーがオフの場合

ノブ/スライダーを操作するとリアルタイムに内蔵音源をコントロールします。操作しているノブ/スライダーのQ EVENTがトラックに記録されている場合には、重複して再生されます。

#### シーケンス再生時、[ACTIVE]キーがオンの場合

ノブ/スライダーを操作するとリアルタイムに内蔵音源をコントロールします。操作しているノブ/スライダーのQ EVENTがトラックに記録されている場合でも[ACTIVE]キーがオンの時は再生されません。

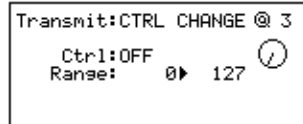
#### OVER DUB時、[ACTIVE]キーがオフの場合

ノブ/スライダーを操作すると、選択しているトラックにQ EVENTとして記録します。操作しているノブ/スライダーのQ EVENTが選択したトラックに記録されていれば、重複して記録します。

#### OVER DUB時、[ACTIVE]キーがオンの場合

[ACTIVE]キーが押された時点のQ-Linkの位置を選択しているトラックにQ EVENTとして記録し、以降は記録されているQ EVENTをノブ/スライダーの操作で上書きします。他のトラックに操作しているノブ/スライダーのQ EVENTが記録されている場合でも[ACTIVE]キーがオンの時は再生されません。

Track1にQ1のQ EVENTが記録されている状態で、Track2にQ1のQ EVENTを記録しようとした場合、[ACTIVE]キーがオンの間はQ1の操作がTrack1のQ EVENTに置き換えられますが、[ACTIVE]キーをオフにしてシーケンスを再生するとTrack1/Track2のQ EVENTが重複して再生されます。CTRL CHANGE/KEY BASEDでも同様の状況が発生しますので、管理し易いようにイベント記録用のTrackを決めて記録することをお奨めします。



## CTRL CHANGEの使い方

### CTRL CHANGE

TransmitフィールドでCTRL CHANGEを選択すると以下のフィールドが表示されます。

- Ctrlフィールド 送信するコントロール・チェンジ・ナンバーをOFF及び0～119の範囲で設定します。
- Rangeフィールド コントロール・チェンジの送信範囲を0～127で設定します。

### Q-Linkを操作してMIDIチャンネル毎にコントロールする

1. Q-Link SETUPモードの[F2]SENDページのTransmitフィールドでCTRL CHANGEを選択し、送信するコントロール・チェンジをCtrlフィールドで、送信範囲をRangeフィールドで設定して下さい。
- コントロール・チェンジの送信先/MIDIチャンネルは選択されているトラックに準じます。

### Q-Linkの操作をCTRL CHANGEとしてトラックに記録する

1. 上記の設定後、シーケンスをOVER DUBしながらQ-Linkノブ/スライダーを操作すると、その操作がコントロール・チェンジとしてトラックに記録されます。
2. シーケンスを再生すると記録したコントロール・チェンジが再生されます。

### CTRL CHANGE選択時の[ACTIVE]キーの動作

シーケンス再生時とOVER DUB時で[ACTIVE]キーのオン/オフによる動作が変わります。

シーケンス再生時、[ACTIVE]キーがオフの場合

ノブ/スライダーを操作するとコントロール・チェンジを送信します。

同じMIDIチャンネル/ナンバーのコントロール・チェンジがトラックに記録されている場合には、重複して再生されます。

シーケンス再生時、[ACTIVE]キーがオンの場合

ノブ/スライダーを操作するとコントロール・チェンジを送信します。

同じMIDIチャンネル/ナンバーのコントロール・チェンジがトラックに記録されている場合でも[ACTIVE]キーがオンの時は再生されません。

OVER DUB時、[ACTIVE]キーがオフの場合

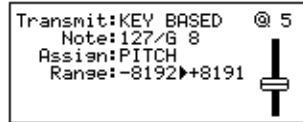
ノブ/スライダーを操作すると、選択しているトラックにコントロール・チェンジとして記録します。

同じMIDIチャンネル/ナンバーのコントロール・チェンジがトラックに記録されていれば、重複して記録します。

OVER DUB時、[ACTIVE]キーがオンの場合

[ACTIVE]キーが押された時点のQ-Linkの位置を、選択しているトラックにコントロール・チェンジとして記録し、以降は記録されている同じMIDIチャンネル/ナンバーのコントロール・チェンジをノブ/スライダーの操作で上書きします。

他のトラックに同じMIDIチャンネル/ナンバーのコントロール・チェンジが記録されている場合でも[ACTIVE]キーがオンの時は再生されません。



## KEY BASEDの使い方

### KEY BASED

TransmitフィールドでKEY BASEDを選択すると以下のフィールドが表示されます。

- Noteフィールド      コントロールするノートを 0 (C-2) ~ 127 (G8) で設定します。
- Assignフィールド    コントロールするパラメータを VOLUME/PITCH/PAN/RELEASE/  
ATTACK/DECAY/RESONANCE/CUTOFF/LFO DEPTH から選択します。
- Rangeフィールド    キーベースド・コントローラーの送信範囲を Volume は 0 ~ 16383、  
Pitch は -8192 ~ +8191、他のコントローラーは 0 ~ 127 で設定します。

Pitch 選択時は PROGRAM モードの [F3] MISC. ページで設定されている Bend up/Bend down フィールドの値に応じて最大 4 オクターブまでをコントロールします。

### Q-Linkを操作してノート毎にコントロールする

1. Q-Link SETUP モードの [F2] SEND ページの Transmit フィールドで KEY BASED を選択し、コントロールするノートを Note フィールドで、コントロールするパラメータを Assign フィールドで、送信範囲を Range フィールドで設定して下さい。
- キーベースド・コントローラーの送信先/MIDIチャンネルは選択されているトラックに準じます。

### Q-Linkの操作をKEY BASEDとしてトラックに記録する

1. 上記の設定後、シーケンスを OVER DUB しながら Q-Link ノブ/スライダを操作すると、その操作がキーベースド・コントローラーとしてトラックに記録されます。
3. シーケンスを再生すると記録したキーベースド・コントローラーが再生されます。

### KEY BASED 選択時の [ACTIVE] キーの動作

シーケンス再生時と OVER DUB 時で [ACTIVE] キーのオン/オフによる動作が変わります。

シーケンス再生時、[ACTIVE] キーがオフの場合

ノブ/スライダを操作するとキーベースド・コントローラーを送信します。

同じ MIDI チャンネル/ノート/コントローラーのキーベースド・コントローラーがトラックに記録されている場合には、重複して再生されます。

シーケンス再生時、[ACTIVE] キーがオンの場合

ノブ/スライダを操作するとキーベースド・コントローラーを送信します。

同じ MIDI チャンネル/ノート/コントローラーのキーベースド・コントローラーがトラックに記録されている場合でも [ACTIVE] キーがオンの時は再生されません。

OVER DUB 時、[ACTIVE] キーがオフの場合

ノブ/スライダを操作すると、選択しているトラックにキーベースド・コントローラーとして記録します。

同じ MIDI チャンネル/ノート/コントローラーのキーベースド・コントローラーがトラックに記録されていれば、重複して記録します。

OVER DUB時、[ACTIVE]キーがオンの場合

[ACTIVE]キーが押された時点のQ-Linkの位置を、選択しているトラックにキーベースド・コントローラーとして記録し、以降は記録されている同じMIDIチャンネル/ノート/コントローラーのキーベースド・コントローラーをノブ/スライダーの操作で上書きします。他のトラックに同じMIDIチャンネル/ノート/コントローラーのキーベースド・コントローラーが記録されている場合でも[ACTIVE]キーがオンの時は再生されません。

## Q EVENTの編集

STEP EDITモードではコントロール・チェンジなどと同様にQ EVENTを編集することができます。リスト上では"Q-LINK:1:Value:1023"のようにイベント名/Q-Linkナンバー/値の順に表示されます。SEQ EDITモードでもコントロール・チェンジなどと同様にQ EVENTを編集することが可能で、Q EVENTは0 ~ 1023の範囲で表示されます。

```
001.01.480   Q-LINK: 1:Value:1023
001.01.481 ----- End of sequence -----
```

STEP EDITモード/SEQ EDITモードのViewフィールドにQ-LINK EVENTが追加されています。ViewフィールドでQ-LINK EVENTを選択してQ EVENTだけを表示/編集することができます。また、Qフィールドで1/2/3/4/5/6を選択すれば、当該Q EVENTだけが表示されます。

```
View:Q-LINK EVENT      Q:ALL      Midi ch:ALL
```

## KEY BASEDの編集

STEP EDITモードではコントロール・チェンジなどと同様にKEY BASEDを編集することができます。リスト上では"37/A01 :VOLUME :16256"のようにノートナンバー/パッドナンバー(ノートネーム)/コントローラー名/値の順に表示されます。SEQ EDITモードでもコントロール・チェンジなどと同様にKEY BASEDを編集することが可能で、VOLUMEは0 ~ 16383、PITCHは-8192 ~ +8191、他のコントローラーは0 ~ 127の範囲で表示されます。

```
001.01.480   40/A05 :VOLUME : 1101
001.01.481 ----- End of sequence -----
```

STEP EDITモード/SEQ EDITモードのViewフィールドにKEY BASEDが追加されています。キーベースド・コントローラーはMIDIシステム・エクスクルーシブ・メッセージですが、Q-Linkノブ/スライダーで入力すると独立したイベントとして表示されるので簡単に編集できます。Noteフィールドで0 (C-2) ~ 127 (G8)を選択すれば、当該ノートだけが表示され、AssignフィールドでVOLUME/PITCH/PAN/RELEASE/ATTACK/DECAY/RESONANCE/CUTOFF/LFO DEPTHを選択すれば、当該コントローラーだけが表示されます。

```
View:KEY BASED      :ALL      :ALL      Midi ch:ALL
```



## ERASEポップアップウィンドウの変更

[ERASE]キーを押してERASEポップアップウィンドウを開いてEraseフィールドでALL EXCEPT ONLY ERASEを選択すると、右隣のEventフィールドにQ-LINKとKEY BASEDが追加されています。

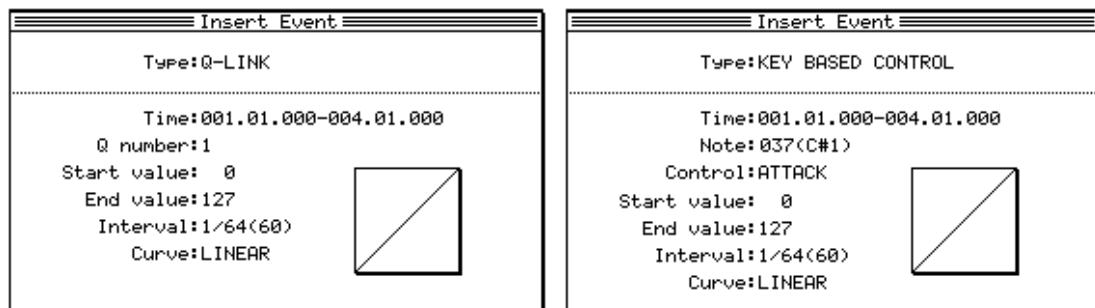
- Q-LINK** Q EVENTを消去したいトラックをTrackフィールドで選択し、消去位置（範囲）をTimeフィールドで設定してから消去するQ EVENTをALL/1/2/3/4/5/6から選択します。
- KEY BASED** キーベースド・コントローラーを消去したいトラックをTrackフィールドで選択し、消去位置（範囲）をTimeフィールドで設定します。  
消去するキーベースド・コントローラーをALL/VOLUME/PITCH/PAN/RELEASE/ATTACK/DECAY/RESONANCE/CUTOFF/LFO DEPTHから選択し、Padフィールドでキーベースド・コントローラーを消去するノートをALL及びA01～F16もしくは0 (C-2)～127(G8)から選択します。



## Insert Eventポップアップウィンドウの変更

STEP EDITモード/SEQ EDITモードで[F6]キー (INSERT)を押してInsert Eventポップアップウィンドウを開くとTypeフィールドにQ-LINKとKEY BASED CONTROLが追加されています。

- Q-LINK** Q EVENTの挿入位置（範囲）をTimeフィールドで設定し、Q numberフィールドでQ-Linkノブ/スライダーを選択してから挿入する値をValueフィールドで設定します。
- KEY BASED CONTROL** キーベースド・コントロールの挿入位置（範囲）をTimeフィールドで設定し、コントロール対象のノートをNoteフィールドで選択してからControlフィールドで挿入したいキーベースド・コントローラーを設定し、挿入する値をValueフィールドで設定します。



Insert Eventポップアップウィンドウについての詳細はリファレンス・マニュアルのP.58以降をご参照下さい。

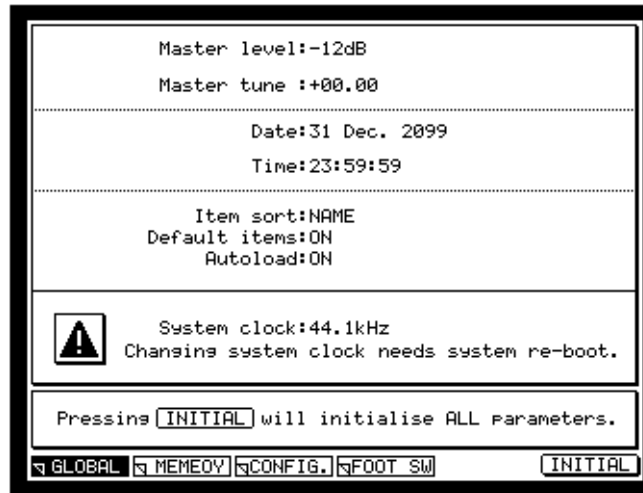
## Default itemsフィールドを追加

電源起動時にデフォルト・アイテム（マルチ/プログラム）を作成するかどうかを選択できるようになりました。後述のAutoload機能を使う場合などに不要なデータが作成されないので便利です。

GLOBALモードの[F1]グローバルページにDefault itemsフィールドが追加されています。

### Default itemsフィールド

- ON 起動時にデフォルト・アイテム（マルチ/プログラム）を作成します。
- OFF 起動時にデフォルト・アイテム（マルチ/プログラム）を作成しません。



## Autoloadフィールドを追加

電源起動時に任意のフォルダ内のデータを自動的にロードさせることができるようになりました。接続されているドライブのルートディレクトリに"Autoload"という名前のフォルダがあれば、当該フォルダ内のデータ（シーケンス/マルチ/プログラム/サンプル）がロードされます。

Autoloadフォルダ内のALLファイルはロードされません。

GLOBALモードの[F1]グローバルページにAutoloadフィールドが追加されています。

### Autoloadフィールド

- ON 接続されているドライブのルートディレクトリにAutoloadフォルダがあれば、フォルダ内のシーケンス/マルチ/プログラム/サンプルをオートロードします。
- OFF Autoloadフォルダの有無に関わらず、オートロードしません。

### 操作

1. 接続されているドライブのルートディレクトリに"Autoload"フォルダを作成してその中にファイルをセーブするか、既存のフォルダ名を"Autoload"へ変更します。
2. GLOBALモードの[F1]グローバルページのAutoloadフィールドをONに設定します。
3. 次回より電源起動時に"Autoload"フォルダ内のデータがオートロードされます。

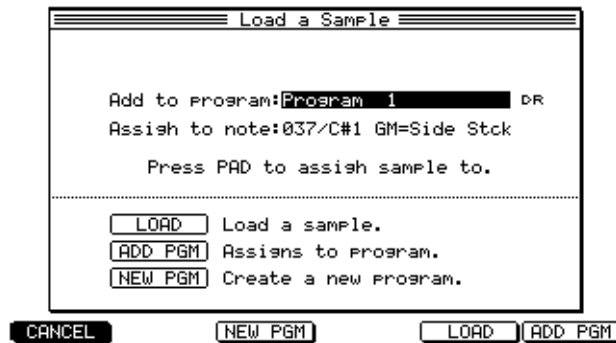
Autoload機能をONにしてMPC4000を起動すると起動画面に[F1]キー(ABORT)が表示されます。[F1]キーを押すとディスクの検索（Searching Disk）を中止してAutoloadをキャンセルします。

注：複数のドライブが接続されている場合にドライブの種類や接続の構成に因っては、Autoloadが正常に機能しない状況があることが確認されています。複数接続で問題が発生する場合には、ドライブを単独で接続してご使用下さい。

## Load a Sampleポップアップウィンドウを追加

LOADモードでサンプルを選択して[F6]キー(DO IT)を押すとLoad a Sampleポップアップウィンドウが表示されるようになりました。サンプルをプログラムにアサインしてロードすることができます。

Add to programフィールドでDRを選択するとAssign to noteフィールドが、KGを選択するとKey range/Keyboard trackフィールドが表示されます。パラメータを設定して[F6]キー(ADD PGM)を押せば、サンプルをプログラムにアサインしてロードし、[F5]キー(Load)を押せば、アサインせずにロードします。



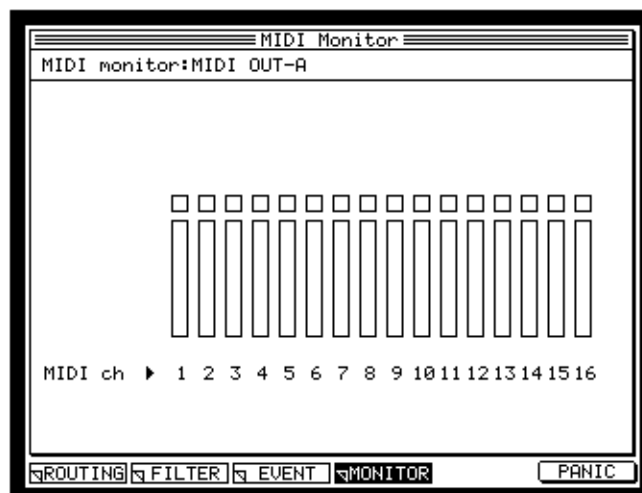
## MIDIモニターページを追加

選択したMIDI端子/ポートのMIDIノートの送受信状況とペロシティ・メーターをMIDIチャンネル毎にモニターできるようになりました。

MIDIモードで[F4]キー(MONITOR)を押すとMIDIモニターページが表示されます。

### MIDI monitorフィールド

MIDI IN I	[ MIDI IN I ] 端子
MIDI IN II	[ MIDI IN II ] 端子
MIDI OUT-A	[ MIDI OUT-A ] 端子
MIDI OUT-B	[ MIDI OUT-B ] 端子
MIDI OUT-C	[ MIDI OUT-C ] 端子
MIDI OUT-D	[ MIDI OUT-D ] 端子
INT-A	サンプラーセクションの仮想MIDIポートA
INT-B	サンプラーセクションの仮想MIDIポートB





**AKAI professional M.I. Corp.**